

# かけはし



## “親離れ” “子離れ”

春はもうすぐです。田中修氏著書『植物はすごい』に、「植物たちは、タネができあがると強い子どもが育つように、子どもたちを新天地に放り出すのです。どんな環境に出会っても、強く生きていってほしいとの思いが込められているのです。新天地に放り出される子どもたちも、その期待を担って親元を離れていきます。植物たちの“親離れ”“子離れ”のよさはすごいのです」と書かれています。そのすごさには大いに考えさせられます。

学校生活の一年間を締めくくる3学期ですが、2月の声を聞くと次の学年（6年生は中学1年）へ向けての準備が大切になります。次に備えるためには、今を知ることです。この一年間で子どもは随分と大きくなりました。外見ではすぐわかりますが、見えにくい心の成長ではどうでしょうか。それは、子どもの様々な行動に現れています。友人関係はどう変化したでしょうか、読書傾向は、言葉遣いは、趣味やこだわりは、親への言葉遣いは等々、子どもの何気ない様子をそのように見ることも次への備えといえます。「うちのは幼いから」と、いつまでも「分かっているから」と思っていると、思わぬ変化に突然驚かされることがあるでしょう。

「子どもを理解しようとする」という思いは決して間違っていないと思います。しかし、「しつけ」とは、親が「子どもを理解する」のではなく、子どもに「親を理解させる」ことが大切なのです。ですから、「ダメなことは、ダメ」の言葉が生きるのです。我々教職員も、同じような気持ちで子どもに接しています。よく、少年期の子どもには『手は離しても、目は離すな』と言われる。子どもと本気で向かい合い、うるさがられても子どもの行動から目を離さないことです。それは、「携帯で連絡し合っているから」「ゲームをやらせてあげればおとなしく言うことを聞いてくれるから」では決して解決されないものです。

親が、子どもの成長に対して確信をもって接すること、信じること、しつけることで、子どもは、地に根を張って親離れしていくと思います。

## 「健康」な体は規則正しい生活と食習慣から

3学期になり、残りの授業日数もあとわずかとなりました。毎日寒い日が続いていますが、子どもたちは元気に目を輝かせながら活動しています。子どもたちの元気な姿に、我々教職員はいつもパワーをもらっています。

人間の活動の源は「健康」です。健康な体は、物事に取り組む意欲や気力といった精神面にも深くかかわっています。学校生活で自分の能力を十分に発揮し、学習効果を高めるのにも健康な体が第一です。健康な体をつくるには、運動とバランスの良い食事、睡眠が必要です。

「健全な精神は、健全な肉体に宿る」という格言のように、日頃から体を鍛えて、健康な心を保ち、精神を安定させるような生活習慣を心がけていけたらと思います。

（文責 山口 正文）